



上智大学創立 100周年
上智短期大学創立 40周年
上智社会福祉専門学校 50周年



サービスラーニング・センターと地域活動

No. 21

1. サービスラーニング・センター（以下SLセンター）とは？

上智大学短期大学部のSLセンターは、2008年11月15日に秦野キャンパス2号館2階に開所した。地域社会への窓口であり、言語教育を中心とした様々な地域貢献活動を行うボランティア学生への支援の核である。施設内には、学生が集う「学生ラウンジ」、活動に必要な書籍、教材、PCなどを備えた「リソース室」、地域社会との連携および学生の活動支援を行うための教職員が在室する「コーディネーター・チューター室」がある。

SLセンター開所のきっかけは、2008年に短期大学部の「サービスラーニングによる学生支援の総合化ーライフデザインと社会人基礎力の養成」が、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」に採択されたことである。

学生による地域貢献活動の総合化を行う教育プログラムを構築することを目的にし、学生は児童英語教育、日本語教育、第二言語習得、多文化主義論、国際関係論などを学び、それらの知識を基に、学外の地域社会において奉仕（サービス）活動に従事する。例えば、地域の小学校や幼稚園で生徒、児童の英語教育を、また、小学校の国際教室や地域の公民館などで外国籍市民を対象とした日本語・教科学習支援を行う。さらに、学生は学外のボランティア活動での体験を、学内の授業へとフィードバックさせ、地域社会での異世代・異文化間交流を通して、コミュニケーション能力や社会性を学ぶ。こうした学生の支援を行うのが、SLセンターである。



開所式が高祖理事長の司式で2008年に行われた

2. SLセンターの役割

SLセンターでは、教職員のコーディネーター・チューターが、学生のボランティア活動を支援している。ボランティア養成講座を企画・実施し、学生の活動開始に向けた基礎作りを行う。活動中にもボランティア活動向上のための講座が組まれている。同時に、学生との個別相談や学生から提出される活動報告書への助言や対応、SNS「SL活動みんなの広場」での意見交換を行って、指導している。活動後には、活動報告会などを実施し、学生が地域貢献活動を通して得た学びを、さらに深化させる試みが行われている。

また、SLセンターは、短期大学部生がボランティア活動を行う地域社会の機関・団体と連携し、連絡調整や意見交換を継続的に実施している。例えば、2007年度から事業協定を結んでいる秦野市を中心とし、秦野市教育委員会、各教育機関、秦野市立図書館、教育懇話会、NGO団体、外国籍市民などと連携している。同時にSLセンター



学校や行政機関と連携して英語教育、日本語教育などの分野で様々な活動を行う

は、総合的学習支援センターとしての役割も担い、短期大学部学生を対象に教養・専門分野や論文作成などにおける学習支援活動も行っている。

3. SL センターと短期大学部生による地域貢献活動

短期大学部生によるボランティア活動の中心は、地域の小学生・幼稚園児などを対象とした英語教育活動と外国籍市民を対象とした日本語・教科支援活動である。地域の教育機関や公共施設で活動する際には、SL センターのコーディネーター・チューターが現場で学生をサポートする。英語教育の場合、センター教職員が小学校に同行して授業の様子を観察し、教員の意見を収集し、学生指導に役立てている。英語教育を通しての地域貢献活動は、2002年に始まり、その後、連携校が拡大し、活動の質の向上が図られてきた。



SLセンターで行う日本語・教科支援ボランティア活動

日本語・教科支援活動は、SL センターを初めとし、秦野市役所の支援を受けて公民館などの公共施設で実施されており、地域との連携およびボランティア活動全般のサポート等をする多文化コーディネーターを中心とする教職員が、それらの学習拠点の管理を担当し、学生に的確な教育上の指導を行うと同時に、活動を支援している。この

活動の起源は、1988年から行っていた地域の外国籍市民宅での「家庭教師ボランティア」活動で、2003年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に採択された。

地域貢献・連携活動は、SL センターが設置されてから拡大し、現在では、次のような活動を行っている。①学習障害などを抱える児童を支援するメンタルフレンド、②秦野市イングリッシュキャンプ、③青年会議所主催児童教育活動、④ハロウィン英語イベント、⑤秦野たばこ祭り、⑥地域安全運動・交通安全運動推進事業、⑦敬老会イベント、⑧神奈川県教育委員会スクールライフサポーターなどにも参加している。



秦野市南公民館でのボランティア活動(写真上)、ハロウィン英語イベント(写真左)、交通安全運動(写真中)にも参加している